

長期戦略:テーマ 「特長ある一貫教育の創出」

提出日 2021年8月24日

| |
|------|
| 担当部署 |
|------|

Ⅱ.実施計画帳票

| | | | |
|-----------------------|-----------------------------|---------------|---------|
| 長期戦略テーマの責任者 (統轄部署) | 小菅常任理事 (一貫教育支援) (総務部) | 実施計画の 担当部署 | 千里(SIS) |
|-----------------------|-----------------------------|---------------|---------|

1. 実施計画

| 実施計画(タイトル) | 取組開始 | 達成状況 確認年度 | 学部・研究科での 取組み有/無 | 帳票 |
|--|------------|---|--------------------|----|
| 4-(4)-② 千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討 | 2019年度 | 2024年度 | 必要なし | 不要 |
| 内容 創立時(1991)より中等部・高等部6年間一貫教育を実施してきた。校内的には7年生から12年生までの継続性は認識されている。2017年度にカリキュラム・ティーチング・ラーニング委員会を立ち上げて2020年からの新しいカリキュラム作りに着手しているが、その一つ目の動きとして、委員会発案で2018年度より旧「総合科」を「総合探究科」と改名・改変し、複数の教科の教員によるチームで総合探究の6年間のプログラムの構築を進めている。今後さらに委員会で6年間の継続性に注目してカリキュラム全体の再編成に取り組んでいく。その際に、さらなる知名度向上を図る上でも、中等部・高等部が6年一貫の「中等教育学校」になることについての可能性を検討したい。利点と難点について研究をし、カリキュラム再編成の検討と並行して取り組む。 なお、2019年度入試を最後として高等部一般入試を廃止とすることはすでに決定、外部への公開済みである。 | | | | |
| 進捗状況を測る指標 | 指標名 | 定義・算式 | | |
| 指標1 | 6年一貫カリキュラム | 6年間の学びで生徒に育みたい能力を可視化し、PDCAサイクルによって検証できたかどうか | | |
| 指標2 | 中等教育学校研究 | 中等教育学校になることの利点と難点を研究のうえ検討し結論を出せたかどうか | | |
| 指標3 | | | | |

目標1<指標1>6年一貫カリキュラム

| | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|----|------------------------|---------------|-----------|------------------|------------------|------------------|
| 目標 | 新カリキュラム完成 | 指導要領改訂情報の収集 | 新カリキュラム完成 | 新カリキュラム問題点の抽出と修正 | 新カリキュラム問題点の抽出と修正 | 新カリキュラム問題点の抽出と修正 |
| 実績 | 文科省の指導要領改訂が延期になったため未実施 | カリキュラム改定会議を実施 | | | | |

目標2<指標2>中等教育学校研究

| | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|----|---------------------|--------------|------------|--------|--------------------------------|--------|
| 目標 | 情報収集 | 研究会開催・他校訪問 | 研究会開催・他校訪問 | 検討WG設置 | 中等教育学校に転換するかの判断 (2023年度で終了) | |
| 実績 | ネット情報、文献による情報収集を行った | コロナ禍があり、実施せず | | | | |

目標3<指標3>

| | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 目標 | | | | | | |
| 実績 | | | | | | |

2. ロードマップ

| | | 2019 年度 | 2020 年度 | 2021 年度 | 2022 年度 | 2023 年度 |
|-------------|-------------------|-------------|----------|-------------|----------|--------------------|
| 6 年一貫カリキュラム | 策定段階 | カリキュラム開発・完成 | カリキュラム実施 | カリキュラム開発・完成 | カリキュラム実施 | 修正・実施 |
| | 2022 年 3 月 末段階 | | | — | — | — |
| | | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 | — |
| | 策定段階 | 修正・実施 | | | | |
| | 2022 年 3 月 末段階 | — | | | | |
| | | 2019 年度 | 2020 年度 | 2021 年度 | 2022 年度 | 2023 年度 |
| 中等教育学校研究 | 策定段階 | 情報収集 | 研究 | 研究 | 検討 | 結論 (2023 年度で終了) |
| | 2022 年 3 月 末段階 | — | — | — | — | — |
| | | 2024 年度 | 2025 年度 | 2026 年度 | 2027 年度 | — |
| | 策定段階 | | | | | |
| | 2022 年 3 月 末段階 | | | | | |

3. 費用計画・人員計画

| 【費用・人員を必要とする理由】 | | | | | | | |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------|--------|------|
| 非公開 | | | | | | | |
| 経費 単位:万円 | 2019年度 承認 | 2020年度 承認 | 2021年度 承認 | 2022年度 承認 | 2023年度 | 2024年度 | 左記以降 |
| 非公開 | | | | | | | |
| 人員・人件費 単位:万円 | 2019年度 承認 | 2020年度 承認 | 2021年度 承認 | 2022年度 承認 | 2023年度 | 2024年度 | 左記以降 |
| 非公開 | | | | | | | |

4. 進捗状況・得られた成果

| | |
|--------|---|
| 2019年度 | 文科省の指導要領改訂が延期されたため、カリキュラム改正（開発）の仕様が未定。 文科省の指導要領改訂に先駆けて 2020 年度よりカリキュラムの全面改定を目指していたが、全面改定は文科省の予定と合わせることで、段階的に改善している。 SGH 最終年度である本年度は、来年度の総合探究科の再編成に向けて総合探求学習の 6 年間のプログラムを整備した。 |
| 2020年度 | 文科省の指導要領改訂が延期されたため、カリキュラム改定（開発）の仕様が未定。 文科省の指導要領改訂に先駆けて 2020 年度よりカリキュラムの全面改定を目指していたが、全面改定は文科省の予定と合わせることで、段階的に改善している。 総合探究型授業は 2022 年度に文科省の決定で正式導入される予定であるが、先駆けて実施を継続。 |
| 2021年度 | |
| 2022年度 | |
| 2023年度 | |
| 2024年度 | |

5. 今後の課題及び方向性

| | |
|--------|--|
| 2019年度 | 当初計画通り進める予定 |
| 2020年度 | 文科省の指導要領改訂の詳細発表が遅れているため、仕様が決定できない。一方で、2022 年 4 月からの運用に間に合わせるためには、システム仕様についての打合せを開始する必要がある。（開発期間 1 年から 1 年半を想定している）その際には、分かっていることや変更がないことから仕様を確定していくこととなる。場合によっては、手戻りが発生する可能性もある。 |
| 2021年度 | 2022 年度より新指導要領に基づくカリキュラムとして運用していくことになるため、カリキュラム改定の最終段階として内容の詳細を検討、確定する。 |
| 2022年度 | |
| 2023年度 | |
| 2024年度 | |

6. 学院総合企画会議の基本方針

| | |
|--------|---|
| 2018年度 | 研究費、講演費用やイベント運営費用はガイド内で対応してください。 新しいカリキュラムに伴うシステム改修・開発費用については、中期計画の枠組みではなく、業務システムの改修として通常の予算申請してください。 「総合探究科」のために必要となる教員については、中期計画の枠組みではなく、SGH 補助金及び現行のルール(千里国際教員枠)に則り、人事部とご相談ください。 |
| 2019年度 | 「総合探究科」等6年一貫の新カリキュラム構築を引き続き進めてください。 |
| 2020年度 | 「総合探究科」等6年一貫の新カリキュラム構築を引き続き進めてください。 ただし、研究費、行内研修講師の講演費用、イベント運営費用については、一般事業ガイド予算で対応してください。 |
| 2021年度 | — |
| 2022年度 | |
| 2023年度 | |
| 2024年度 | |

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

| レビュー結果 | 可否 | 備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性) |
|---|---------------|---|
| ・「中高一貫教育校」への転換については、手続き上難しい点があることから、実質的な6年一貫教育を行うために、実施計画名を変更して継続する必要がある。 | 継続 ・ 廃止 | ・6年一貫の「総合探究」を軸とした教育カリキュラムの構築 ・Kwansei コンピテンシーと SOIS ラーニングコンパスとの関係の整理 |

【フェーズ II (2022~2024)】

| レビュー結果 | 可否 | 備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性) |
|--------|---------------|--|
| | 継続 ・ 廃止 | |